

《教育長メッセージ 第56号》



『研究発表会』

学校では、毎年度、教職員がテーマを設定して、教科の指導法や特色ある教育活動の実践などについて、研究に取り組んでいます。

校内研究として、年間をとおして、校内でお互いの授業を参観し、話し合いを重ねているのです。

そして、その研究の成果を、例年、「研究発表会」として、他の学校の教職員に公開しています。

今年度、海老名市では、ひびきあう教育研究指定校として、大谷小学校、社家小学校、柏ヶ谷中学校が研究発表会を開催しました。研究校の教職員が授業を公開し、それをもとに他校の教職員と研究協議し、お互いを高め合う機会としています。

教職員にとっては、法で示された職務なのですが、一般的にはよく知られていないことです。もちろん、希望があれば、教職員以外の方でも参加することは可能です。

また、研究発表会の開催にあたっては、保護者の方々が、駐車場の案内や参加者への対応などで、ご協力をいただいているところです。

私としては、積極的に自分の学校の校内研究で、研究授業として授業を公開してほしいと思っています。

また、研究発表会に参加して、他の学校の様子や授業を観てほしいと思っています。教職員は、休暇の取得もそうですが、子どもたちが目の前にいることから、出張や休暇で授業に穴を開けてはいけないという思考が働く傾向があり、あまり積極的に学校を出ようとはしません。

私は、学校を出て研究発表会に参加して、自分の学校や自分の授業を、あらためて外から見てほしいと教職員に働きかけているのです。できれば、市外の学校がよいのです。そして、先進的な教育を実践している研究校がよいのです。

出張の帰り道、ようし、こんな授業をしてみよう、こんな学級を作ろう、明日から、また、子どもたちのためにがんばろうと思っています。

私は、若い頃、よく、小田原の学校の研究発表会に参加していました。

自分の学校を離れて、小田急線や東海道線で向かうことは、不謹慎ですが、遠足的で楽しいものでした。駅から学校に向かう道は、その町の雰囲気があり、学校に入るとその学校ごとに色がありました。海老名の学校は、新設の学校が次々と生まれている時代で、小田原は、何か、生まれ育った田舎の学校の感じがして、懐かしい感じがしました。

今では当然ですが、その頃、学習者である子どもが主体的に学習を進める授業を参観することは少なく、先進的な授業を展開する研究校の取組は、衝撃的でした。

他の教職員が教室に入ってくれてはいますが、子どもを自習にして出張に出ることは、申し訳ない気持ちでしたが、それ以上に、よりよい授業をしようという意欲をかき立てることは、私にとって大切なことでした。

「研究発表会」 海老名の教職員の仲間には、ぜひ、年に1回は、学校を出て参加してほしいと思うのです。

今回は、「学級の仲間」について、私の思いをあれこれ話してみたいと思います。